

## 研究主題 「生きる力の育成」 ～「伝え合う力」を高める指導を通して～

### I 主題設定の理由

「生きる力」の育成に関する本校教育課題は次の4点である。

- ①平素の学習活動や各種調査結果から家庭学習の習慣が確立されていない。
- ②幼少時から少人数集団の中で、互いに思いやり、助け合って学校や地域での生活を送るなど、思いやりの心をもった生徒が多い。しかし、互いのことをよく知っているがため、きちんと話す必要性が低く、自分の考えを表現する力が弱い。
- ③体育や健康安全に関する指導並びに部活動の充実により、たくましい心や身体をもち、生き生きと生活できる生徒の育成に努めたい。
- ④教職員と生徒の信頼関係をさらに強めるとともに、開かれた学校の実現を目指し、保護者や地域社会と協力して生徒の望ましい成長を支えていくようにさらに努力したい。

本校の学校課題を振り返ったとき、「生きる力」にある「確かな学力」の定着に関して、主に教育課題②「自分の考えを表現する力が弱い」に視点を当て、「伝え合う力」について理論研究と授業実践を行い「生きる力」を育成していきたい。

今年度は昨年度に引き続き、大和中生徒の課題の一つである「伝え合う力」に焦点を当て、さらに深化・発展を図り、「生きる力」の育成を目指していきたい。

### II 研究内容

#### (1) 授業実践について

- ①全教科に共通する「伝え合う力」または各教科の特性に応じた「伝え合う力」について指導主事や講師を招聘して理論研究を行う。
- ②一人一実践と全教職員参加の研究授業を行う。一人一実践や研究授業は、「伝え合う力」の視点で授業を行い、その効果について検証する。また、昨年度からの継続で学習会のような全校活動を行う。「伝え合う力」がどのように育まれているか生徒へのアンケートを年度初め・年度末の2回実施する。

#### (2) 「学習の手引き」について

昨年度の「学習の手引き」を再検討して作成し、生徒、保護者に説明し、学習指導に活用する。また、教科の評価規準・評価基準についても再確認すると共に、評価についての生徒保護者向けの資料を生徒、保護者に開示する。

### Ⅲ 具体的研究内容

#### (1) 理論研究に基づいた一人一実践

- |           |                                |       |
|-----------|--------------------------------|-------|
| 10月16日(水) | 1年理科「身近な物理現象 光の進み方」            | 奥山教諭  |
| 23日(水)    | 3年国語「新聞記事で問題を作ろう」              | 鮎沢教諭  |
| 30日(水)    | 2年数学「1次関数」                     | 筒井教諭  |
| 11月6日(水)  | 2年社会「身近な地域の調査」                 | 前島教諭  |
| 13日(水)    | 1年英語「Unit8 疑問詞 Where・whoseの用法」 | 杉山教諭  |
| 25日(月)    | 2,3年体育「ソフトボール」                 | 小石澤教諭 |
| 12月2日(月)  | 2年音楽「オーケストラの豊かな響きと様々な表現を味わおう」  | 富田教諭  |
| 4日(水)     | 1年家庭「調理実習 カレーライス」              | 藤本教諭  |

#### (2) 講師を招聘しての研修

7月10日(水) 伝え合う力を高める指導～言語活動の取り入れ方～

講師 義務教育課 重田誠指導主事

11月13日(金) 社会科授業研究会

講師 峡東教育事務所 小林俊彦指導主事

#### (3) 甲州市「確かな学力」育成プロジェクトと関連して

Q-U検査の詳細な分析を行い、全体で確認し合い、学級づくり・集団づくりに生かした。また、小規模校の集団での学び合いの1つとして、定期テスト前の放課後に全校生徒による一斉勉強会を行った。

### Ⅳ 成果と課題

#### (1) 成果

- ・各教科統一されたテーマで授業を行うことで、生徒も授業に慣れ、研究を通し少しずつ成果が出てきているように思う。
- ・生徒一人一人の特性を生かす授業が行われていた。教師全体が生徒一人一人の特性に応じた授業実践を行っていたことがよかった。
- ・自分自身としても勉強になった。自分が授業の中で「伝え合う力」を高める活動をどう仕組むか、難しい課題であったが、様々な活動を考えることができた。
- ・授業で個人や小グループ内での考えや意見をまとめ発表する手立てとして付箋やホワイトボードを活用するなど指導の工夫が見られた。
- ・生徒自ら授業態度の振り返りをし、生徒会による授業規律づくりの取り組みも見られ全体として学ぶ態度や意欲が向上した。

#### (2) 課題

- ・少人数の課題を生かした研究が行われてきたが、全体的にはまだまだ生徒の積極性や自分から進んで活動できるところまでいっていないので、来年度からも個を生かしながら大和中としての学校力を高めていきたい。

### Ⅴ 成果物

「2学年社会科学習指導案」「平成25年度 大和中学習の手引き」

(研究主任 前島香織)